

●眼底検査

所見名	説明
Scheie (シエ) <small>ぶんるい</small> 分類	H (0~4) は高血圧性変化を、S (0~4) は動脈硬化性変化を指します。数字が大きいほど変化が進んでいると判断することができます。
Keith-Wagner (キース-ワグナー) <small>ぶんるい</small> 分類	高血圧性変化の分類で0~IV群までに分類されます。数字が大きいほど変化が進んでいると判断することができます。
<small>もうみやくじょうみやくぶんきへいそくしょう</small> 網脈静脈分枝閉塞症	網膜の静脈が閉塞して障害を起こす網脈静脈閉塞症の中で、静脈の枝の部分が閉塞した場合を「網膜静脈分枝閉塞症」と呼びます。
<small>もうみやくちゅうしんじょうみやくへいそくしょう</small> 網脈中心静脈閉塞症	網膜の静脈が閉塞して障害を起こす網脈静脈閉塞症の中で、視神経乳頭部で静脈の根元が閉塞した場合を「網膜中心静脈閉塞症」と呼びます。
<small>たんじゅんとうによびょうもうまくしょう</small> 単純糖尿病網膜症	糖尿病の合併症です。点状出血（針の先でつついたような出血）や硬性白斑（たんぱく質や脂肪が網膜についたしみ）、毛細血管瘤（毛細血管が膨らんでできるこぶ）などが眼底所見として見えます。視力低下などの自覚症状はありません。
<small>ぞうしょくまえとうによびょうもうまくしょう</small> 増殖前糖尿病網膜症	単純糖尿病網膜症が進行した状態です。軟性白斑（血管が固まって網膜にできた綿花状のしみ）や静脈の異常（静脈が異常に腫れ上がる）などが眼底所見として見えます。視力低下などの自覚症状はありません。
<small>ぞうしょくとうによびょうもうまくしょう</small> 増殖糖尿病網膜症	単純糖尿病網膜症がさらに進行した状態です。新生血管（正常ではないはずの新しい血管が、網膜の酸素不足を補おうと硝子体へのびてくる）が現れたり、硝子体出血（新生血管が破れて出血する）や網膜剥離という重症な段階です。硝子体出血や網膜剥離が起こると物が見えづらい、ぼんやりと見える、視野に黒いものがあるなどの自覚症状があらわれます。
<small>にゅうとうふしゆ</small> 乳頭浮腫	視神経乳頭の充血や腫れを意味し、ぶどう膜炎や視神経炎などの炎症性疾患、脳内の疾患の可能性がります。
<small>おうはんへんせい</small> 黄斑変性	網膜の中でも物を見る中心部である黄斑部に異常がおこり、放っておくと失明にいたる危険性もある病気です。加齢性によるものは加齢黄斑変性と呼ばれます。
<small>もんりがんてい</small> 紋理眼底	紋理（豹紋状）眼底とは、網膜の下の脈絡膜の血管が透けて眼内に網目状の模様があらわれる状態をいいます。加齢や高度近視が原因になることが多いです。

<p>ゆうづいしんけいせんい 有髄神経線維</p>	<p>網膜の神経線維は鞘を被っていませんが、生まれつき鞘を被った状態で白いブラシの刷毛のように見える所見です。</p>
<p>ドルーゼン</p>	<p>網膜の視細胞からでる老廃物で、加齢により上手く処理されなくなり蓄積された状態です。加齢黄斑変性の前段階とされています。</p>
<p>にゆうとうそうはく 乳頭蒼白</p>	<p>視神経乳頭の正常な色調は黄赤色ですが、外傷、変性、炎症、循環障害などにより視神経萎縮が起こると色調は蒼白となります。</p>
<p>にゆうとうかんおうかくだい 乳頭陥凹拡大</p>	<p>すべて視神経乳頭の中心には「へこみ（陥凹）」があり、そこから血管、視神経が出入りしています。この「へこみ」が「視神経乳頭の陥凹」と呼ばれています。網膜の神経線維が減少すると視神経乳頭の「へこみ」が通常よりも大きくなります。緑内障を疑う重要な所見です。</p>
<p>おうはんもうまくぜんまく 黄斑網膜前膜</p>	<p>網膜の病気の中では最も多い病気のひとつです。網膜の中でも物を見る中心部である黄斑の前に薄皮のような膜ができる病気で、かすんで見える、ゆがんで見えるなどの症状がでてきます。</p>
<p>しょうしたいこんだく 硝子体混濁</p>	<p>硝子体ににごりが生じています。放置してよいものと治療が必要なものがあります。</p>
<p>おうはんえんこう 黄斑円孔</p>	<p>網膜の中でも物を見る中心部である黄斑部に穴があく病気です。ここに穴が開くと、視力低下、ゆがんで見えるなどの症状がでてきます。</p>
<p>かれいおうはんへんせい 加齢黄斑変性</p>	<p>網膜の中でも物を見る中心部である黄斑部が、じわじわと障害されて視力障害を生じる病気です。</p>
<p>りょくないしょう 緑内障</p>	<p>視神経に異常が起こり、視力低下や視野（見える範囲）障害が引き起こされる病気で、失明することもあります。初期は自覚症状がほとんどなくゆっくりと進行します。日本では視覚障害原因の1位となっており、早期の治療が重要です。</p>
<p>しんけいせんいそうけっそん 神経線維層欠損</p>	<p>視神経乳頭から扇状に広がる神経線維が欠損することで、視野障害がおこる前に、最も早期に生じる緑内障性眼底変化です。</p>

<small>ししんけいしょうにゅうとう</small> 視神経小乳頭	<p>すべて視神経乳頭の中心には「へこみ（陥凹）」があり、そこから血管、視神経が出入りしています。この「へこみ」が「視神経乳頭の陥凹」と呼ばれています。へこみが小さいことを「小乳頭」といいます。視神経小乳頭の場合、視神経の陥凹が目立たなくても、緑内障である人が数多くいますので注意が必要です。</p>
<small>もうまくしきそはん</small> 網膜色素斑	<p>網膜色素上皮が障害されると色素の脱失と沈着が起こり、白と黒の色素斑ができます。</p>
<small>しょうたいしゅけつ</small> 硝子体出血	<p>硝子体そのものに血管はないので、この部位で出血するわけではありません。硝子体は無色透明ですが、ほかの部位からの出血で濁ることにより、光が遮られ見えにくくなります。原因には、糖尿病網膜症、網膜静脈閉塞症、網膜裂孔、網膜剥離、加齢黄斑変性症などの網膜の病気があります。</p>
<small>もうまくはくはん</small> 網膜白斑	<p>高血圧、動脈硬化、糖尿病、腎臓疾患、血液疾患、膠原病、外傷などのいろいろな病気で見現します。</p>
<small>もうまくさいどうみやくりゅう</small> 網膜細動脈瘤	<p>網膜動脈は加齢とともに硬化し、弾力がなくなります。高齢に加え、高血圧で動脈硬化性変化が著しくなると、網膜動脈の一部はこぶ状に膨らみ（動脈瘤）、膨らんだ部分から眼底出血が起こります。</p>
<small>もうまくしきそへんせい</small> 網膜色素変性	<p>遺伝子異常が原因で光を感じる組織である網膜が少しずつ障害を受ける病気です。</p>